

日展ニュース

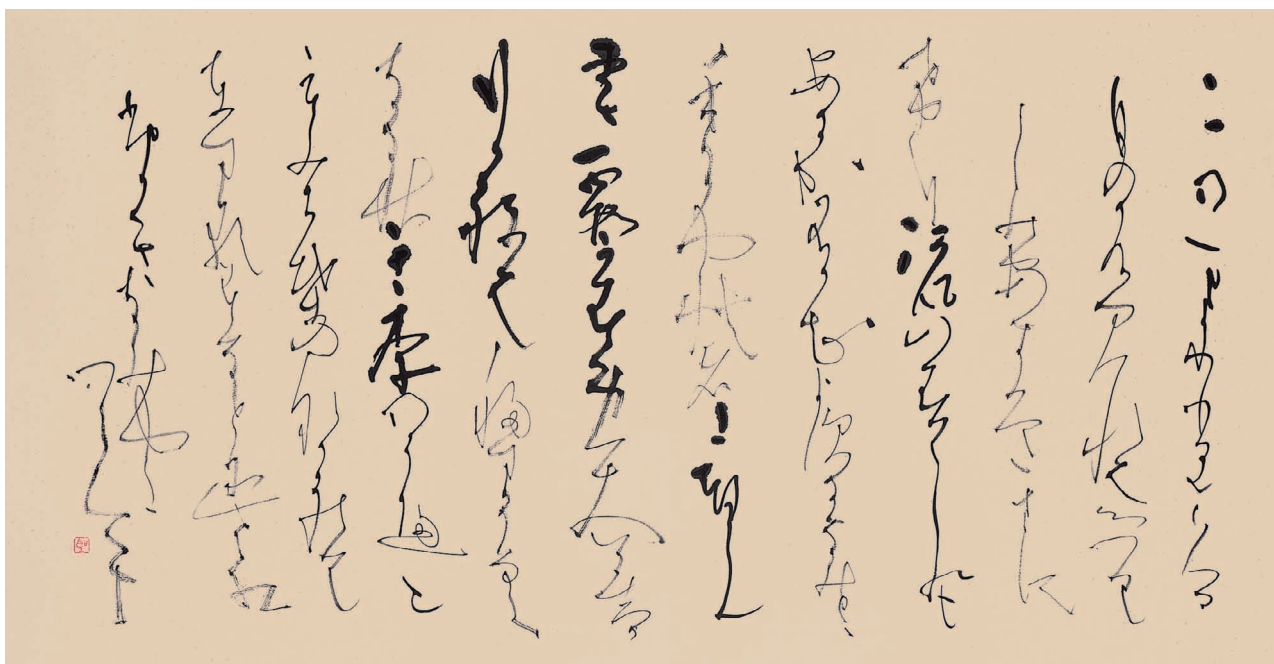
No. 175

<http://www.nitten.or.jp/>

令和2年7月31日発行

編集兼発行人 土屋 禮一

第84回 定時 総会



古今和歌集抄 高木聖鶴

日展理事長に就任して

奥 田 小由女



先般日展では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う美術館休館等の影響により、巡回展の大阪会場は途中閉幕、安曇野、金沢、長崎の各会場は中止に追い込まれました。この非常事態の中、現体制で乗り切るようにとの投票結果によって理事長再任の重責をお受けいたしました。日展作家の命を守る事、芸術文化の灯を絶やさない為、心を合わせ助け合い前進してゆき、素晴らしい日展の開催を祈念致しております。

日展副理事長・事務局長に就任して

土 屋 禮 一



此の度、日展事務局長の重責を改めて仰せつかりました。私自身を育てていただいたこの日展と云う土壌が少しでも豊かなものになるよう、私達の未来でもある、若き作家の信頼を失わない組織であるよう、粘り強く尽くしたいと思っております。皆様の御支援を心からお願いたします。

日展副理事長退任に際して

藤 森 兼 明



二度目の副理事長を二年務めさせていただきましたこの度、退任いたしました。日展にとって激動の七年の現場に在任し、内から見える日展、外から見られる日展と大変貴重な体験をさせていただきました。今後共日展の一員として広い視野でお役に立てます様、微力ながら努力して参ります。

日展副理事長退任に際して

井 茂 圭 洞



光栄なことに伝統ある日展の副理事長を四年間務めさせて頂きました。その間日展の改革と発展のために微力ながら尽力いたしました。これは会員の皆さまの絶大なご声援とご協力の賜物とありがたく存じております。今後は歴史のある日展が隆盛を極めるために、会員の方々と共に努力して参りたいと念じております。

日展副理事長退任に際して

加 藤 種 男



公益法人としての改革は達成されており、この点はささやかながらも役目を果たせたのかと思います、感謝申し上げます。一方で「経営改革による日展の新たな飛躍」には十分寄与できず、心残りです。皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

日展副理事長に就任して

根 岸 右 司



この度、図らずも日展副理事長の重責を仰せつかりました。今コロナ禍のことで不安が社会を覆い、その現実の中で他の課題と併せ日展運営の真価が問われています。道筋を立てながら更に魅力ある日展を目指し、微力ながら全力を尽してまいります。会員の皆さまの更なる御指導、御支援を切にお願い申し上げます。

日展副理事長に就任して

神 戸 峰 男



この度、理事会におきまして、副理事長を拝命いたしました。前期に引き続き、二期目の就任となり、身の引き締まる思いです。先人たちの功績をふまえ、日展全体を盛り上げ、活気ある公益法人としての在りようを模索するとともに、新たな展開を見据え、充実した二年になるよう尽力する所存です。今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。

日展副理事長に就任して

黒 田 賢 一



この度、思いもかけず日展副理事長という大任を頂き、責務の重要性を痛感しております。一三三年の伝統の上に改革が進められてきた日展。五科が協調し合いながらより充実し魅力あるものにしていくため、少しでもお役に立てるよう努めて参る所存です。会員の皆様のご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。

第84回定時総会報告

日時 令和二年六月二十五日

午後二時

場所 ホテルグランドパレス

ダイヤモンドルーム

出席 四九五名（含議決権行使書）

役員・会員新人事

令和二年六月二十五日付

新顧問

洋画

中山 忠彦 藤森 兼明

理事

理事長 奥田小由女

副理事長 土屋 禮一

事務局長 根岸 右司

副理事長 神戶 峰男

副理事長 黒田 賢一

（◎は理事長 ◇は副理事長）

日本画

◇土屋 禮一 福田 千恵

村居 正之 山崎 隆夫

渡辺 信喜

洋画

小灘 一紀 佐藤 哲

斎藤 秀夫 ◇根岸 右司

湯山 俊久

彫刻

◇神戸 峰男 能島 征二

宮瀬 富之 山田 朝彦

山本 眞輔

その他の報告事項

1 会友規則の一部変更報告について

2 令和二年度称号授与予定者

報告について

3 改組新第六回日展巡回展開催

報告について他

工芸美術

◎奥田小由女

春山 文典 武腰 敏昭

吉賀 將夫 三田村有純

書

新井 光風 井茂 圭洞

◇黒田 賢一 高木 聖雨

星 弘道

外部

河野 元昭 松本 正之

監事

洋画

町田 博文

彫刻

石黒 光二

書

土橋 靖子

新会員

令和二年三月二十五日開催の理事会において、左記二十一名が選出された。

令和二年四月一日付

日本画

伊東 正次 稲田亜紀子

川嶋 渉 松浦 丈子

洋画

大竹 正治 岡本 猛

西谷 之男 松野 行

彫刻

小関 良太 高野 眞吾

二塚佳永子 前芝 武史

宮坂 慎司

工芸美術

安藤タヅ子 浅井 啓介

竹森 公男

書

伊藤 仙游 河西 樸堂

新谷 泰鵬 野田 正行

吉澤 劉石



新準会員

令和二年三月二十五日開催の理事会において、左記一八名が選出された。

令和二年四月一日付

新会友

令和元年七月二十五日開催の理事会において会友規則の一部変更(会友資格取得の要件を「入選10回」から「入選8回」に変更)を承認した。

第一科 日本画 (三名)

大崎多実穂 新川 美湖
松永 敏

第二科 洋画 (二名)

一の瀬 洋 河本 昭政

第三科 彫刻 (四名)

岡本 和弘 屋田 光章
森田 一成 安田 陽子

第四科 工芸美術 (六名)

兼先 恵子 川口 満
十二町 薫 田中 貴司
本間 秀昭 向山伊保江

第五科 書 (三名)

池田 毓仁 岡本 藍石
金子 大藏

—会友規則— 抜粋

第3条 会友は次の各号のいずれかに該当する者で、理事会の承認を受けた者とする。

- (1) 昭和33年以降、日本美術展覧会(以下「展覧会」という)において特選を受賞した者
- (2) 昭和33年以降、展覧会において8回以上の入選を経た者

この規則変更により、令和二年三月二十五日開催の理事会において、左記四四三名が選出された。

令和二年四月一日付

第一科 日本画 (四〇名)

安住小百合 安藤 洋子
足立 昌之 天笠 慶子
網谷真佐美 石崎 誠和
一木 恵里 今村 市良
大島 麻美 大田 実穂
奥原美智子 上口 文治
岸本 志津 北川由希恵
工藤 彩 黒岩けい子
黒岩 知里 佐藤 博子
坂田 潤世 坂本 武典
清水 航 田中 達也

第二科 洋画 (一一二名)

竹ノ下ひさえ 長尾 英代
西野千恵子 野原都久馬
林 森次 福原 康子
福本 百恵 堀田 律子
前 都志子 堀田 恭子
三谷 佳典 宮下 和司
安田やよひ 山本 静香
山本 眞希 吉田 慶子
渡邊久二男 渡辺 信子
相澤 裕一 青山 英和
雨宮 嘉吉 井田 善子
井藤 雅博 伊藤 尚尋
飯田由賀里 飯塚 和秀
市原 浩幸 今井 明吉
入江 英子 岩瀬 侑夫
江口 登 海老原秀男
小沢 一廣 尾崎 史典
大久保佳代子 加藤 久子
海田 敬子 神山 晃一
川上 浩平 川俣 修子
川村 隆夫 木下 博寧
木谷 徹 菊岡 政明
北原 啓介 栗原 誠子
小松 茂子 米今 里恵
佐伯 育郎 佐藤 京子
齊木 健治 齋藤 勝美
齊藤紀久子 酒井 恵子
酒井 文子 鷺 悦太郎
崎谷 桂子 笹原 弘子
清水佳代子 島崎 英子
下田 秀子 沈 堅毅
須藤 赫子 鈴木 千壽
鈴木 佳子 住井ますみ
曾我部厚美 孫 美良
田口 孝子 田中 建司
田畑明日香 平良 武二
高橋 和義 高柳 剛士
出口 順治 遠山 厚史
時田 治子 徳丸 晃
中田 勝彦 中村 裕二
中村 悦子 中山小夜子
長江 洽次 西 美奈子
西澤 史郎 西澤 美幸
西田藤三郎 西野 博樹
西村日呂子 波多野雅子
橋場 彰一 橋本 弘幸
畑山 明子 林田 博子
半田 豊和 平田 昌己
廣澤 節 藤井あかね
藤井 真之 藤川 弘康
藤田 和章 藤本 雄二
細野 篤子 前 知津子
松井 廣志 松永 諄子
松原 真紀 三橋 允子
三橋 文彦 南 巖衛
宮城 静子 宮原 榮作
宮原 清 明圓 浪子
武藤 久子 村上 幸子
村田 洋子 村山千鶴子
望月 照華 森 敬介
森 照造 安田 祐治
安村 敏彦 柳澤 利光
柳下 義一 山口 孝子
山口 操 山下 光子
山中さとゑ 山本 正子
結城 唯善 吉岡真紀子
吉川英一郎 吉田 勝美
吉田 定 吉田 武志
渡辺 一弘 頼住美根生

第三科 彫刻（一八名）

芦田 風馬 伊藤 奏太
神山 美登里 河口 知佳
澤口 准子 志村 広子
樽井 美波 西見 智之
西山 良文 灰塚 みゆき
播間 公次 松宮 紀代
三政 洋一 美坂 康太郎
宮地 淑江 本村 勝也
諸井 謙司 山本 将之

第四科 工芸美術（六十五名）

青山 祐子 天谷 理彩
荒木 スミ子 五十嵐 まさみ
井上 英基 井野 清次
猪俣 美帆 池邊 絹江
石上 久美子 石田 満美
市川 博一 宇佐見 美和
植山 佳子 氏家 未香子
梅田 洋 小澤 正勝
小田 中 藍 大谷 桂子
太田 いくみ 金井 大輔
神尾 和子 川本 ちゑ子
木村 正和 北嶋 裕子
小池 信子 小林 洋子
興梠 宜伸 近藤 卓浪
斉藤 頼子 澤田 達子
清水 幹夫 正和 朗実
鈴木 輝男 鈴木 義之
瀬尾 三千代 高木 彩子
高橋 幸一 竹内 彩子
竹川 欣秀 竹花 富美子
谷口 良孝 辻 宏美
寺島 利男 富澤 利男
富田 忠志 中村 厚子
中村 慎 長尾 一正

第五科 書（一九九名）

安積 九齡 青谷 祥泉
赤澤 寧生 秋元 貞治
秋山 千華 浅野 峻卿
浅野 鈴秀 井上 邦子
井上 南海 井田 智佐子
井出 琴泉 伊東 龍州
伊藤 小游 伊藤 雅一
池田 光遊 池田 春汀
石田 朴洞 磯 暁風
出田 塘葭 磯 翠茗
今井 仙童 岩谷 香代子
岩脇 佐雅 卯中 恵美子
宇多 青莎 上田 大愚
上野 逸畔 植森 克昌
氏田 照陽 内山 寒山
恵谷 錦繡 遠藤 慶光
尾崎 木堂 大門 光熙
大河 紫流 大河 節子
大澤 梢光 大田 鵬雨
大田 亘 大橋 永佳
大平 汀華 大森 湖仙
大山 麗泉 恩田 静月
加藤 欄遂 我部 玉萩
片山 清洲 川西 美智
川代 久美子 川西 美智

平瀬 マリ子 平野 まり子
平山 敏文 福田 典子
藤見 眞知子 眞島 美代子
松宮 輝明 三本 健助
三輪 廉浩 峯尾 直明
宮木 康 宮島 正志
村尾 一哉 村上 守治
村越 郁夫 湯浅 双葉
吉江 夕音

河端 春鳶 河野 鵬堂
河田 三和子 菅野 禎心
木原 研石 国原 葉月
窪田 晶香 熊谷 咸集
糸田 芝青 小島 岐香
小島 健堂 小林 玉秋
小林 明香 幸喜 洋人
古林 菱花 郡 玉川
河野 玲風 越坂 久雄
近藤 江南 佐々木 紅濤
佐々木 芳越 佐貫 省風
坂元 真澄 酒井 幸子
坂本 由朗 三箇 清暉
澤田 月華 芝野 美邨
柴谷 峰花 島田 香岫
島田 小攝 下川 蒼田
末吉 舞舟 杉山 玉秀
菅内 皓雪 鈴木 翔雲
鈴木 史鳳 炭谷 春香
田頭 昭生 田中 光穂
田中 豊香 田村 夕綏
田ノ岡 大雄 高木 彰規
田村 秋海 高野 紅舟
高桑 嚴風 高橋 清玄
高山 雅風 瀧谷 江東
高山 松雨 武村 榮子
竹本 大鶴 谷口 和光
辰林 法子 津久井 智恵美
調子 久美子 坪井 華泉
経澤 菁汀 露崎 玄峯
寺尾 桑林 寺尾 碩雲
戸村 舟里

東海 美風 中岡 志織 中田 藤葩 中村 暢子
中田 龍雲 長沼 龍雲 南羽 硯影
丹羽 春蘭 西田 純晴 八田 登雲
原田 満子 原田 伯禹 樋口 紫水
不動 佑南 福井 青藍 福島 輝子
福富 玲茜 福本 朱鳳 福井 草香
藤井 森香 藤森 大節 藤原 昭二
藤川 遥香 細川 晴美 細川 泰彦
本波 棲亭 真崎 攝葉 松浦 螢郊
松本 百合子 松本 静琴 水戸 旭翠
松本 静琴 水戸 旭翠 光枝 旭翠
光枝 旭翠 麦倉 江翠 本浪 静枝
森川 史 森川 実代 森田 洋光
八尋 漱玉 安河内 弘瑤 柳沢 翠明
山内 香楓 山本 昌道 山本 博道
山本 晃一 山本 筑崖 吉澤 太雅
渡辺 翠波

藤西 茜女 中嶋 和子 中家 柳邨 中家 寛子
滑志 田方 仁科 惠 新田 梨香
西村 雅舟 原沢 多詠 原沢 古子
松本 伸子 平位 か子 福井 淳哉
福井 佑香 福井 明代 福永 美泉
福山 大轟 福山 昭二 藤原 郁代
藤原 石圃 堀田 泰彦 眞喜屋 華泉
町田 景雲 松尾 無雙 三宅 教之
水野 京翠 向井 千砂 村上 上子
森上 洋光 森田 草藍 森田 芝瑤
安河内 弘瑤 柳沢 翠明 山内 香楓
山本 昌道 山本 博道 山本 晃一
山本 筑崖 吉澤 太雅 渡辺 翠波



日展

改組新 第7回 日本美術展覧会 公募

日本画 Japanese Style Painting	洋画 Western Style Painting	彫刻 Sculpture	工芸美術 Craft as Art	書 Sho
個人入展日 10.14(日)・15(月)・16(火) 団体入展日 10.16(火)	個人入展日 10.9(日)・10(月)・11(火) 団体入展日 10.11(火)	個人入展日 10.17(日)・18(月)・19(火) 団体入展日 10.18(火)	個人入展日 10.9(日)・10(月)・11(火) 団体入展日 10.11(火)	個人入展日 10.6(日)・7(月)・8(火) 団体入展日 10.6(火)

改組新 第7回 日本美術展覧会 2020年 10月30(日)～11月22(日) 休館日 10月31(月)・11月1(火)・11月2(水)・11月3(木)・11月4(金)・11月5(土)・11月6(日)・11月7(月)・11月8(火)・11月9(水)・11月10(木)・11月11(金)・11月12(土)・11月13(日)・11月14(月)・11月15(火)・11月16(水)・11月17(木)・11月18(金)・11月19(土)・11月20(日)・11月21(月)・11月22(火)

国立新美術館 The Japan Fine Arts Exhibition

改組新第7回 日本美術展覧会
会場 国立新美術館
 東京都港区六本木7-22-2
会期 令和2年10月30日(金)～11月22日(日)
 休館日 4日(水)・10日(火)・17日(火)
観覧時間 午前10時～午後6時(入場は午後5時30分まで)
主催 公益社団法人 日展

※ 新型コロナウイルス感染症対策のため、入場制限を行う場合がありますので、あらかじめご了承ください。
 最新の開催情報は「日展ウェブサイト」<http://nitten.or.jp/> 確認下さい。



本年度の開催要綱が出来上がりました。
 ご応募の流れ

応募に必要な
 資料の請求
 (切手を郵送)

日展事務局より
 開催要綱・出品
 申込書等を郵送

作品の搬入

封筒に左記のものを同封の上、日展事務局宛にご郵送ください。

・部数に応じた送料分の切手
 ・必要部数、送付先の住所、氏名を明記した紙

(送付先)

〒110-0002 東京都台東区上野桜木2-4-1「日展事務局 出品申込書係」宛

送料…1部 2部 140円、3部 210円、4部 250円

6部以上ご希望の方は事務局までお問合せください。TEL 03(3821)0453

※返信用封筒は不要です。

※速達をご希望の方は、速達希望と明記の上
 送料+速達料金(290円)の切手をあわせてお送りください。

切手が事務局に到着次第、左記の書類を郵送いたします。

・開催要綱

・出品申込書

・鑑査結果通知用の封筒

【個人搬入の方】

各部門で決められた搬入日および搬入場所(開催要綱参照)に、
 出品申込書・鑑査結果通知用の封筒・出品手数料(12,000円)
 を添えて、作品を搬入してください。

【搬入業者をご利用の方】

各搬入業者の所定の手続きにしたがい、作品の搬入を依頼してく
 ださい。業者ごとに締切期日等が異なる場合がありますので、詳
 細は直接各社にお問い合わせください。
 (宅配便での受付はしていません。)

日展会員、準会員、会友の方々の出品票発送予定

○会員、準会員、前年度特選受賞者…9月初旬頃

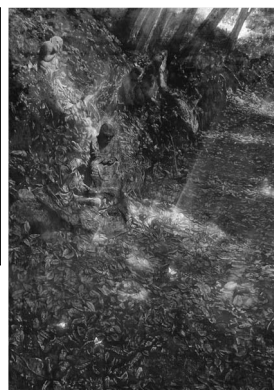
○会友…8月中旬から下旬頃



《凍》 川嶋 渉

コロナ禍後、今まで普通にあった価値観が大きく変わろうとしている。
古い体質の企業や業態が市場から撤退して、新しい形に取って変わる。
「新」日展と自分自身の今後へ、不安とそれ以上の希望を抱いていきたい。

日本画 伊東正次



《野仏図〜陽だまりの戯れ〜》
伊東正次

ご挨拶申し上げます

新会員より

日展の魅力は五科から成る所です。これまでジャンルの違う先生方のご意見を賜り、大変刺激を受けて参りました。

新会員になったこれからも、専門性を横断する交流をより深め、精進して参る所存です。

日本画 川嶋 渉



《讃歌》 松浦丈子

私にとって自然は無限で美しく、それを表現する為の感性をより以上に磨かなければと、日展会員にご承認頂けた今、改めて緊張しております。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

日本画 松浦丈子



《シシウド野》 稲田亜紀子

作品図版

改組 新 第6回日展出品作
2019 (令和元年)

この度は新会員となり身の引き締まる思いです。
本年はコロナの影響により、足を運べない場所や会えない人々を想う機会が増えました。

多くの縁に支えられ、美術と関わりながら生きていられる今に感謝しています。

日本画 稲田亜紀子



《景》 大竹正治

日展に出品し始めて、ようやく仲間になれた思いです。又、気を引き締めていかなければと自分に言い聞かせております。ここ2、3年私的に大きな節目がありましたが、前向きに良い仕事をしていきたいと思います。

洋画 大竹正治



《生命》 岡本 猛

百年を越える日展という大河の流れに身を置き、改めて先人の偉大さと自分の矮小さを感じている。今はただ、先人に学びながら、小さき者なりに自分の絵を描き続けていくばかりである。

洋画 岡本 猛



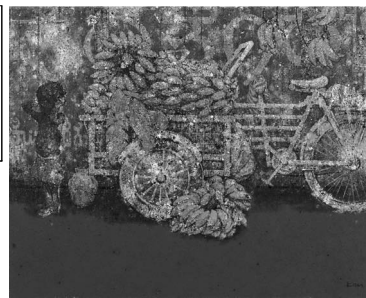
《夏の池畔》 西谷之男

歴史ある日展の一員となり、身の引き締まる思いでいます。これからも自然の魅力と取り組みながら研鑽を続け、日展会員の名に恥じないように精進して参りたいと思います。よろしく願い申し上げます。

洋画 西谷之男

心に響くような絵を描きたい。多くの良き師や仲間にも恵まれ、今日があることに深く感謝しています。伝統の重みをしっかりと受け止め、更なる作品の向上と日展の発展に微力ながら寄与できるよう精進してまいります。

洋画 松野 行



《渇き》 松野 行



《プロメテウスの解放》
高野真吾

この度は、日展会員の栄誉を賜り感謝致します。今後も作品制作の喜びをかみしめながら、さらに誠心誠意精進を重ねてまいります。ご指導ご鞭撻賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

彫刻 小関良太



《みちゆき》 小関良太

これまで日本美術の中で日展の果たしてきた功績は大きいと感じています。組織の一員となった今、日展の名に恥じぬよう日々研鑽を重ねたいと思います。今後、この伝統を継承しつつ未来へ発展できるよう努力していく所存です。

彫刻 高野真吾

日展に新会員として加われました事、皆様のお陰様と感謝致します。コロナ禍で新たな日常生活の中、不安を感じる日々となりましたが、少しでも穏やかな時を感じられる作品を制作出来るよう精進して参ります。

彫刻 二塚佳永子



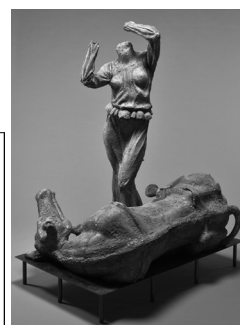
《とん・とん・とん》
二塚佳永子



《singing shell-II》
宮坂慎司

近代から時代を越えて彫刻文化を育んできた日展。その一員として次代に向けて何ができるのか、自分に問い続けていきたい。恩師や先輩が示してくれた「かたち」に対する責任を、自身も彫刻家として追求していきたい。

彫刻 宮坂慎司



《最後の唄》 前芝武史

構造を見て構成を考える。古と諸学を識り現代の作品へ。自然から感じさせたいものへ。現代具象彫刻とはその思考と哲学をいう。巨匠や偉人の考え、生物進化、解剖学的神秘、美学、宇宙…。その狂喜を更に深く深く。

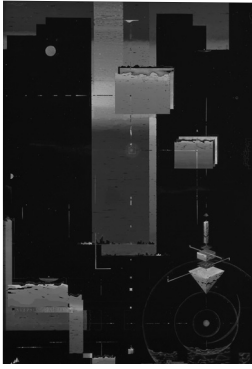
彫刻 前芝武史



《帰想》 安藤タヅ子

日展初入選が一度目。そして今は二度目のスタートラインに立った心境です。新しい明日の日展を担うべき、若い作家の力を引き出せる自分の力量を培いながら、今後の作品の制作に責任を持って臨みたいと思います。

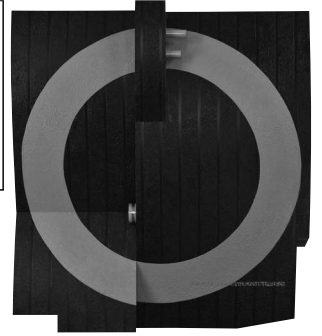
工芸美術 安藤タヅ子



《天月地黄昏》 竹森公男

この歴史ある日展、新会員。より一層真摯に作品制作に取り組みなければならないと、心に強く思いました。そして、いつも創造的な美に挑戦し続けることを肝に銘じ、作品を出品し続けていく所存でございます。

工芸美術 浅井啓介



《円窓Ⅵ》 浅井啓介

会員の委嘱を賜り、まことに光栄に存じます。混迷の時代、日常の美しいと感ずる瞬間や事象を大切に、安寧を祈りながら自分の象で表せるよう、一つ一つ積み重ねてまいりたいと思います。

工芸美術 竹森公男



《高山雑詩》 伊藤仙游

日展会員にご推挙頂き歓びに溢れると共に、その責務の重大さに身の引き締まる思いです。常に書の古典と対峙しながら独自の書美を求めて、また書の美を広汎に理解頂けるように、更なる研鑽に努めたいと存じます。

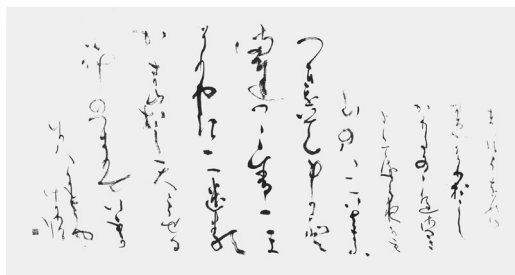
書 伊藤仙游



《順彼長道》 河西樸堂

会員という身に余る立場にご推挙いただきまして、甚だ恐縮しています。初心に返り、よく筆裘を紹ぐべく着実に歩を進めてゆきたいと思います。

書 河西樸堂



《月夜(つくよ)》 吉澤劉石

日展への憧れや思いは書を志した時から持ち合わせていました。現在は「作家として常に作品に責任を持たなくてはならない」とさらに自分自身に言い聞かせ、日々古典に目を向けた研鑽に努めているところです。

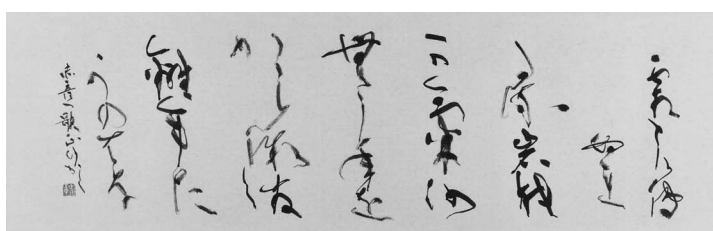
書 吉澤劉石



《萬葉歌》 新谷泰鵬

此の度、日展の会員に承認していただき、書を志してから60年を振り返りながらその意味の重大さをひしひしと感じています。今後は、会員に相応しい仕事が出来様の、一層の精進をせねばと肝に銘じております。

書 新谷泰鵬



《りんだうの花》 野田正行

日展は、日本芸術の展開に大きな役割を担っていますし、誰もが認める最高峰の展覧会です。この会員になれましたことの職責を考えますと身の引締まる思いです。更に鍛錬を積み、より良き作品制作に励みたく存じます。

書 野田正行

地方だからこそ持てる制作世界

(日本画) 佐藤 和歌子



これまで地方から出品を続けてきて感じることは変わらず、地方にいと、どのように評価していただけるかわからない不安があり、だからこ

そより充実した作品づくりをしなれば、という思いが以前からありました。そのモチベーションをいかなる場合にも持ち続けることが、これからは地方で描き続けていく上で必要なことだと思います。

制作しやすい環境さえあれば、都会との差はほとんどないように思います。但し、その地域にしかないものがたくさんあって、それが生活の基盤であり、私たちの感性の根底にあるものだと思うようになってきました。それを含めて、それぞれの地方にそれぞれの制作世界があればいいなと思います。

(熊本県在住)

感謝

(洋画) 内海洋江

いつも「出品者の思い」を読ませて頂き、各地で同じ思いで頑張っておられる方々の人生や日常生活に触れて、多くのことを学び、励みにさせて頂いております。

私は高校生の頃、絵の道に入り、幸運にも良き師と多くの先輩方、仲間恵まれ、ご指導頂きました。また今まで大好きな絵を続けることが出来たのは、八十九歳になる母が家事を担ってくれたのは、家族の協力があってこそだと、ただただ支えて下さった方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

日展の巡回展がふくやま美術館で開催されたのは十年くらい前ですが、公募展を観る機会の少ない地域だったので、当時は大きな話題になりました。この時ばかりは、地元の人たちに観てもらえる、絵を描き続けてきて良かったと感慨深いものがありました。感謝、ありがとうの気持ちを忘れず、さらに精進を続けていきたいと思っています。

(広島県在住)

各地からの



心の糧

(工芸美術) 兼 先恵子

日展に出品を始めた二十代は、植物や風景を描き、その過程で湧き上がるイメージを構想し制作を続ける日々でした。が、次第に完成した作品に物足りなさを感じ、表現の内容や形態に試行錯誤を繰り返しながら制作しておりました。先の見えない私のチャレンジを温かく見守って下さった先生方、先輩方の何げないアドバイスが道標となり歩を進めることが出来ました。

「浮き沈みの中でも続けていけば、見えなかった世界が見えて来る節目が有る。その時の発見を重ねて己の思考の世界を



汗と安堵の搬入道中

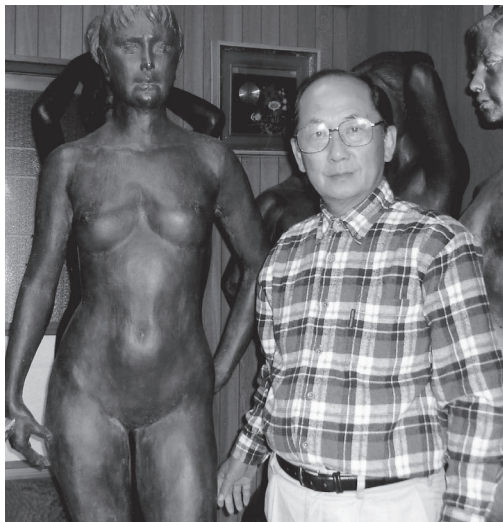
(彫刻) 鈴木徹男

水戸は上野からＪＲ特急列車で一時間余りのところにあります。駅からさらに東に向けて二十分ほど車を走らせると我家に着きます。自宅周辺は丘陵の先端部に位置していて、かつて目の前は海だったようです。近くには常陸風土記に記された国指定史跡の『大串貝塚』が公園として整備保存されています。園内には縄文時代の復元住居や巨人展望像があり、像に登ると広大な水田地帯が望めます。

私は数年前まで、日展への搬入をマイカーで行っておりました。地元の先生方に道案内を頂き、車列を整えて首都高速を走りました。幾つものジャンクションに戸惑いながら、必死になって先導車について行つたものです。そして、外苑出口で高速を降り六本木の美術館通入口に入るや否や、どっと一年の疲れと安堵の汗が出るのでした。日展作品の搬入搬出は私にとって毎年最後の大事な仕事でした。

先生方にはこのようなことまでお世話になり、有難く大変感謝致しております。

(茨城県在住)



出品者の思い

広げなさい。」との恩師の言葉は今も私の制作の糧です。悩み、躓き、諦めかけた時、この言葉を思い起し、もう少し続けてみようと思いを奮い立たせています。京都という多様な文化を育んだ地は、伝統を守りながらも新しい物を否定しない懐の深さが有り、恵まれた制作環境で仕事を続けられる事を大事に、美しいと思う感性を見失うことなく、染色を通して、最大限表現へと昇華させる努力を続けたいと思っています。

(京都府在住)

かな書道にめぐりあって

(書) 津志田 沙苑

私は岩手県宮古市に生まれ、盛岡市に嫁いで五十年が過ぎました。盛岡は旧南部藩の城下町、秀峰岩手山を望む自然豊かな街です。岩手県は石川啄木や宮沢賢治等秀でた文人が輩出しております。

みちのく岩手に「かな書道」が根付いたのは六十年程前、深山龍洞先生方の熱意と行動力で花開いたものです。

私も雅な流麗美に魅せられ、四十代半ばに主婦の趣味として「かな教室」に入門しました。地元の書展から夢の日展へも挑戦し続けましたが、日展初入選は六十歳過ぎでした。私の所属している書道会本部は神戸にありますので、家人の理解協力の支えで研究会等にも参加し学べることは、書作の悩みはあるものの充実の七十代です。

これからは健康に留意し、書友や弟子達と共に「伝統ある日展」に挑戦すること、筆文化継承に繋がると信じております。それが充実した日々につながってくださった先生方への感謝と考えております。

(岩手県在住)



作家人生—私の仕事—

転機

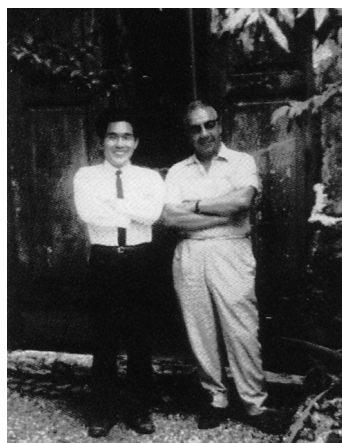
第三科彫刻 理事 山 本 眞 輔



《心の旅—光の舞—》
(平成三十年改組 新 第五回日展出品作)



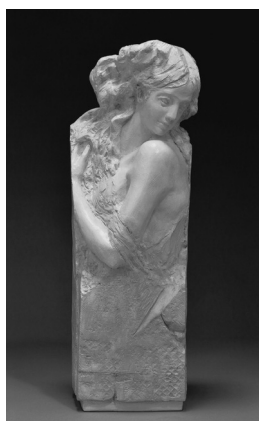
《心の旅—風に祈りて—》
(平成二十九年改組 新 第四回日展出品作)



Prof. Pericle Fazzini と
Fazzini アトリエ前にて (1968年)



《心の旅—ヴェネツィア—》
(平成十二年第三十二回日展出品作)



《シクラサーの風》
(平成二十八年第四十六回日展出品作)



東京教育大学(現・筑波大学)「彫塑」に入学するため石膏デッサンを勉強した。学科試験もあり合格は大きな自信になった。大学では「塑像制作」がメインであった。裸のモデルを前にしていかに正確に写すことができるかという技術の習得が「彫塑」を究めることだと思っていた。学部を卒業し教育学専攻科「彫塑」(現・大学院)に進学してもモデルを見て正確に写すことが彫刻制作であると思っていた。自分の力がどの程度のかを知りたいと「日展」第三科に出品し入選したことも私を力づけてくれた。大学専攻科卒業と同時に名古屋市立保育短期大学に「図画工作」「絵画制作」担当の教員として職を得て赴任した。それ以後名古屋を中心として制作活動を続けている。

このころ(一九六〇年代)ヨーロッパではマンズー、グレコ、ファッチーニ、ヘンリー・ムーアなどイタリアを中心とした彫塑表現の新しいうねりが「古典主義表現」に新しい息吹を吹き込んでいた。このうねりを肌で感じたいと思ったのは私だけではない。日本の作家たちがこぞってイタリア風に傾いたのはこの頃である。

イタリア語試験に合格、(一九六八・六九)イタリア政府給費留学生としてローマ・アカデミア彫刻科に留学した。アカデミアには「グレコ教室」と「ファッチーニ教室」があり私は「ファッチーニ教室」に入った。そこで目から鱗、私にとっては大きな転機があった。

日本でデッサンを勉強、塑像制作基礎訓練もし、日展にも入選したという私の「己惚れ」はファッチーニ先生の一言で大きく崩された。「デッサンをうまく描けなくていい。粘土で人体描写することもない。彫刻は君が何をつくりたいかを考えることだ」当時の自分にとっては大きな転機であった。

自分が何を表現したいかという「イメージ」を制作の中心に据える。これが以後の私の仕事の方向を決めてくれている。帰国後も日展に出品し現在に至っている。



《収穫》（昭和58年第15回日展出品作）日展会員賞



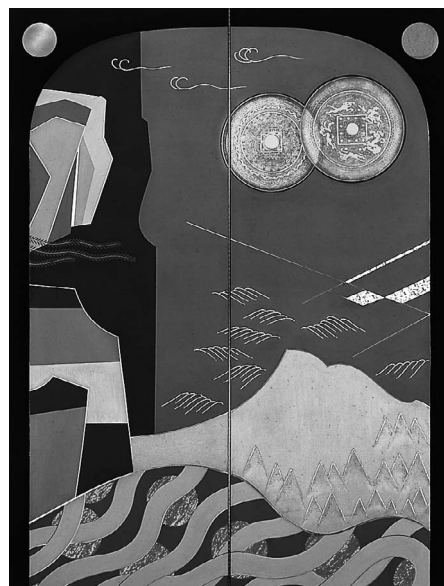
《燦光》

（昭和四十三年第十一回日展出品作）
特選・北斗賞



《スサノオ聚抄》

（平成十五年第三十五回日展出品作）
日本芸術院賞（日本芸術院蔵）



漆芸作家集団「フォルメ」結成
前衛活動展開

彩漆への道

第四科工芸美術 顧問 伊藤 藤裕 司

京美校（京都市立日吉ヶ丘高等学校）を卒業して東京へ出たのは昭和二十九年（一九五四年）の春で、先の大戦後の復興も緒に就く前のことでした。あの酷しい時代に寝食を与えて頂く内弟子として受入れて下さったのが山崎覚太郎先生とご一家の皆様でした。そして東京でのその五年間が私の漆芸作家としての門出でもありました。

当時、先生は塗・蒔絵の伝統の漆芸を脱して、新しい漆の美を求め、従来の箱・棚・器物等を越えて彩漆による制作に新しい漆の活路を求め、大作の平面志向に舵を切られた直後に先生の膝元に飛び込んでいったということ、それまでの緻密な表現を捨て、彩漆による筆勢をも敢えて重視する大胆な表現に活路を拓かれ、アトリエで先生の指示される彩漆作りに日夜専念する日々を過ごし、「彩漆」が私の感性の内に強烈に浸透して、いまの私があります。

五年の徒弟生活を辞して京都に戻りました。幸い京都には、番浦省吾先生を始め新しい漆芸の道を求め活動を開始した作家集団「朱玄会」があり入会を許され、その末席で作家人生の第一歩を踏み出すこととなり、制作も彩漆をベースに伝統の蒔絵技法や様々な異素材を取り入れるなどして画面作りも多彩になっていきました。

昭和五十二年（一九七七年）秋、朱玄会の作家たちの日展出品作品が審査の結果、予想外の多数の選外という深刻な事態となり、番浦先生を始め全会員が数日真剣な討論を重ねた結果、若い作家たちの層を切り離して、別の集団を作り、それを認め支援していくこととなり私がその全権を任されました。才知秀れた鈴木雅也君を強力な同志として「フォルメ」という集団を結成し、濃密な創作活動を十年余展開して、最後は画廊を一年間使用契約し、各作家の個展シリーズを展開。その後、ある事態に直面して解散も止むまいこととなりました。思えば、社会との接点を求めつづけた活動は各人がそれぞれの志向のもとに大作を以って建築空間への装飾美を求めるなど、個々ではなし得ない運動体として、漆の旧態打破の「アバンギャルド」の運動でもありました。

「過去の形に囚われるな。常に新しい創意に自分を賭ける。見る人に「漆」から絵画を越える深さと感動を覚えて貰う力の漲った作品を作れ」

いまも師の叱咤激励がことある毎に蘇ってきます。

日展ゆかりの

美術館 散策

第17回

全国各地の美術館の中から日展作家
ゆかりの美術館を関係者の紹介文を
添えて少しずつご案内いたします。
是非、日展作家の名作との出会いを
お楽しみください。

第五科書 会員 山本大悦

「私の家のすぐ近くに法樂寺という古刹がある。その昔、慈雲さんは、ここで剃髪修行せられた。寺歴によれば平重盛の創建というから相当に古い。門を入ったところに樹齢八百年の大楠がある。計ったことはないが、四かかえか五かかえぐらいはある。…『書源』（昭和四十六年第五巻八号）巻頭言から引用した小坂先生の文である。

書家・小坂奇石先生は一九〇一年、徳島県に生まれ、一九九一年に奈良県で没した。その間の一九七八年（七十七歳）までの四十年余りを大阪府東住吉区に居を構えた。法樂寺へは徒歩数分の所である。散歩がてら郵便局への行き帰りに山門をくぐり楠の大木を仰ぎ、しばし思いを巡らせていたようだ。法樂寺の老僧の話によると、当時、若僧だった私に、大楠の前で大樹の成長を人間に例え、若者への篤い思いを語られたり、月参りで先生宅を訪れた時は、床の間にかかる書について話が弾んだことを思い出す、とのことであった。

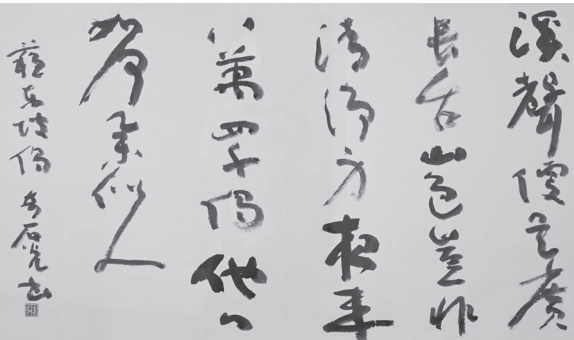
以来昵懇にされていたご縁で、小坂先生が亡くなり七回忌の時に「小坂奇石記念館」を境内に建立する運びとなり、一九九七年開館に至った。「法樂寺

法樂寺リーヴスギャラリー

小坂奇石記念館

リーヴスギャラリー「小坂奇石記念館」は前面が総ガラス張りで、僧侶がかぶる網代等をイメージしたモダンな建物のギャラリーと、人々が手を合わせる台掌の姿を形取ったホール明王殿とに分かれた造りになっている。

小坂先生の作品は日展や公募展に出品された大作をはじめ小品、焼物、染色、またお稽古で書かれた折帖など約四百点余りが収蔵されている。毎年十一月中旬から一ヵ月間、小坂奇石展を開催しているが、今年是小坂奇石生誕百二十年、没後三十年の記念展である。作品以外に先生自らが執筆法、用筆法等を研究、書き記した手控え帳が展示される。「書は線である。ゆえに用筆は直筆蔵鋒」が先生の口癖で、まさに「線の行者」であった。特に拘ったのが執筆法で、「撥鑑法」を図解で示した手控え帳は先生の探求心のたまもので必見である。皆さんも是非ご覧下さい。



《蘇東坡 偈》（昭和63年第20回日展出品作）



法樂寺リーヴスギャラリー 小坂奇石記念館

〒546-0035

大阪市東住吉区山坂1-18-30

TEL 06(6626)2805

【アクセス】

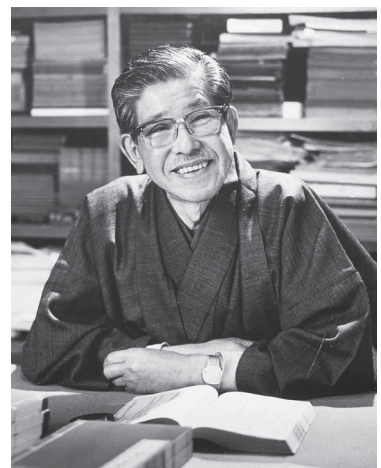
JR阪和線 南田辺駅より徒歩5分

OsakaMetro谷町線 田辺駅より徒歩8分

小坂奇石(1901~1991)

書家

日展参事



日展パートナーズについて

日展パートナーズは、公益事業活動を財政的にサポートいただく賛助制度（寄附制度）で、個人と法人・団体を単位として募集いたします。

（個人）

一口／年 二〇、〇〇〇円
（十口まで申し受けます）

（法人・団体）

一口／年 一〇〇、〇〇〇円
（十口まで申し受けます）

日展は、その前身である文部省美術展覧会（文展）の創設から今年一三年を迎える伝統ある美術団体です。日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書と五部門からなる日本最大規模の「日本美術展覧会」には全国から多くの美術ファンのご鑑賞を頂いております。日展は展覧会事業の他に、美術に関する調査研究事業、美術鑑賞及び創作に関する体験講座事業、美術研究冊子及び図書刊行事業等を通じて、我が国美術文化の振興発展に寄与することを目的としています。

これらの諸事業を推進するには、多くの個人の皆様並びに法人・団体の皆様からの深いご理解とご支援をいただくことが欠かせません。

つきましては、日展の公益事業活動に賛同し、ご支援くださる方々を対象とした賛助会員制度「日展パートナーズ」を設け、ご賛助をお願いする所存でございます。皆様方には、本趣旨にご賛同いただき、温かいご支援を賜りますよう「日展パートナーズ」へのご加入を心よりお待ちしております。

賛助会員制度《日展パートナーズ》

（掲載希望者のみ 令和2年5月末現在）

●個人

東 晋一郎様	飯田真未様	池田康子様	石崎喜江様	井上道守様	今村忠司様	岩村朝子様	岡 昌志様	奥田卓三様	梶山純子様	木下隆介様	呉 祐輔様	児玉安司様	坂本美賀子様	副島 隆様	高木千春様	田頭益美様	高橋千笑様	田中宏典様	土橋正彦様	鶴巻百合子様	中原有三様	西田俊通様	西村友子様	福田瑞子様	堀 稲子様	松岡庸子様	宮負丁香様	村里 暁様
新井演子様	飯塚勝己様	石崎國夫様	井谷善恵様	今田功一様	岩田 薫様	大谷眞治様	奥田節子様	角井 博様	金子美和様	栗原直子様	黒田浩平様	近藤慎男様	佐川かおる様	高木京子様	高木寛史様	高田久信様	竹本大鶴様	谷本佳美様	土屋礼央様	中田由佳様	中室里恵様	西村潤帰様	野田裕一様	藤田理恵子様	真下清美様	松本正之様	宮島幸男様	森脇順子様

●法人・団体

株式会社 IDホールディングス様	医療法人社団 永寿会様	株式会社 大垣共立銀行様	株式会社 加賀屋様	鹿島建設 株式会社様	株式会社 川端商会様	株式会社 玉蘭堂様	謙慎書道会様	ゴールドデン文具 株式会社様	株式会社 光雲堂様	株式会社 佐久間太熙堂様	株式会社 靖雅堂夏目美術店様	公益社団法人 創玄書道会様	株式会社 高山草月堂様	株式会社 筑波銀行様	T&Tパートナーズ法律事務所様	株式会社 テレビ長崎様	東洋額装 株式会社様	中川特殊鋼 株式会社様	公益社団法人 日本書芸院様	有限会社 跋渉堂様	福井素鳳堂様	株式会社 便利堂様	有限会社 丸栄堂様	有限会社 みなせ筆本舗様	株式会社 ミライト・テクノロジーズ様	一般財団法人 桃園学園様	株式会社 谷中田美術様	株式会社 湯山春峰堂様	菱三印刷 株式会社様	株式会社 リンクス様	株式会社 和光様
------------------	-------------	--------------	-----------	------------	------------	-----------	--------	----------------	-----------	--------------	----------------	---------------	-------------	------------	-----------------	-------------	------------	-------------	---------------	-----------	--------	-----------	-----------	--------------	--------------------	--------------	-------------	-------------	------------	------------	----------

改組 新 第 6 回 日 展 巡 回 展

開催順	開催地	会 期	会 場	開 催 者	入場者数(人)
	東 京	2019年11月1日～11月24日	国 立 新 美 術 館	公益社団法人 日 展	103,722
1	京 都	12月14日～ 2020年1月11日	京都市美術館別館 みやこめっせ・日図デザイン博物館	日展京都展実行委員会	25,336
2	名古屋	2020年1月29日～2月16日	愛知県美術館ギャラリー	中 日 新 聞 社	37,266
3	大 阪	2月22日～3月22日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2/28閉会	大 阪 市 立 美 術 館	日展大阪展実行委員会	24,792
4	安曇野	(4月25日～5月17日) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止	安曇野市豊科近代美術館	安曇野市豊科近代美術館 公益財団法人 安曇野文化財団	—
5	金 沢	(5月23日～6月14日) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止	石 川 県 立 美 術 館	北 國 新 聞 社	—
6	長 崎	(6月21日～7月20日) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止	長 崎 県 美 術 館	日展長崎展実行委員会	—

叙 勲

令和二年四月

旭日中綬章

寺坂 公雄 (日展顧問)

旭日小綬章

新井 光風 (日展理事)

改組 新 第 6 回 日 展 出 版 物

割引販売のご案内

日展図録 (5部門・5分冊)

割引価格 各一、〇〇〇円(税込)

日展作品集

割引価格 一、〇〇〇円(税込)

※送料一律五〇〇円

詳細は日展ホームページのお知らせ欄をご覧ください。

表紙

「古今和歌集抄」

一九九一年(平成三年)

第二十三回日展

内閣総理大臣賞

87×167cm

高木 聖鶴

(二九三二〇一七)

公益財団法人

総社市文化振興財団所蔵

左の先生方が逝去されました。
謹んで哀悼の意を表します。



伊藤 利行先生(洋画・会員) 2・1・11
鈴木 竹柏先生(巨画・顧問) 2・2・7
(日本芸術院会員)
老衰のため死去。
一〇一歳。

まれ。昭和十八年第六回新文展初入選、同三十九年日展会員、同四十五年日展評議員、同六十年日展監事、同六十二年日展評議員、平成元年日展理事、同三年日展監事、日本芸術院会員、同四年日展常務理事、同六年勲三等瑞宝章受章、同七年日展事務局長、同九年日展理事長、同十一年日展顧問、同十九年文化功労者、同二十一年日展会長、同二十六年日展顧問。昭和三十八年第六回日展審査員(以降合計十二回)。

荒木 文夫先生(彫刻・会員) 2・2・27
植松 弘祥先生(書・会員) 2・5・7
樋口 洋先生(洋画・会員) 2・6・11
高橋規矩治郎先生(洋画・会員) 2・6・29
工藤 道汪先生(洋画・会員) 2・7・5
岩井 韻亭先生(書・会員) 2・7・6
瀬戸 剛先生(彫刻・会員) 2・7・15

編 集 後 記

今回の日展ニュースは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、総会の開催が約一か月遅れ、それに伴い発行が遅れましたことをお詫び致します。密を避けての開催となった総会では、事業報告・収支決算・役員改選・秋の日展に関する事項等が承認されました。

春や夏の公募展は緊急事態により取りやめが相次ぎ、作品発表の場が失われる状況となっていました。作家の皆様方はこの様な中でも日展に向けて制作に励んでいらっしゃる事と思います。当面はウイルスと共存する生活となりますが、秋には日展が無事に開催される事を願うばかりです。

この新型コロナウイルスにより亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りすると共に、医療従事者や日々生活を支えて下さる方々に深く感謝申し上げます。早くワクチンが開発されて、平常に戻ることを切に願っております。(相武)

編集委員 川田 恭子 水野 収
桑原 富一 平野 行雄
清家 悟 堤 直美
相武 常雄 月岡 裕二
中村 伸夫 西村 東軒